

■コメント

1. 腸管出血性大腸菌感染症

1件(O157)の報告があり、今年の累計は4件となりました。例年、気温の高い時期に報告数が多くなっており、注意が必要です。

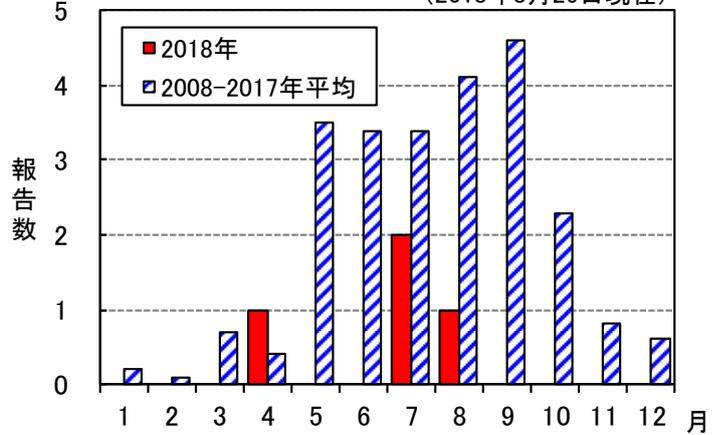
腸管出血性大腸菌は、感染力が強く、汚染された食品を食べたり、患者や保菌者の汚染された手指を通して二次的に感染します。食品の十分な加熱、手洗いの励行など感染予防対策を徹底しましょう。

2. 後天性免疫不全症候群

1件の報告があり、今年の累計は7件となりました。

腸管出血性大腸菌感染症の月別報告数(広島市)

(2018年8月26日現在)



第33週はお盆期間中で、医療機関の休診の影響により患者報告数が少なくなっている可能性があり、正確な比較ができないため、第34週は「定点把握感染症報告状況(週報対象)」(下表)の発生記号の表示を行っていません。

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	
フィロ	インフルエンザ	1	0.03	-	-		
	流行性耳下腺炎	1	0.04	0.70			
小児科	咽頭結膜熱	5	0.21	0.55			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	45	1.88	0.87			
	感染性胃腸炎	90	3.75	3.65			
	水痘	3	0.13	0.65			
	手足口病	31	1.29	2.24			
	伝染性紅斑	2	0.08	0.25			
	突発性発しん	8	0.33	0.51			
	ヘルパンギーナ	18	0.75	0.93			
	眼科	RSウイルス感染症	34	1.42	1.02		
		急性出血性結膜炎	-	-	0.08		
流行性角結膜炎		13	1.63	1.36			
細菌性髄膜炎		-	-	-			
基幹	無菌性髄膜炎	-	-	0.23			
	マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.29			
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-			
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-			

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	5	92	女性(40歳代)・1人、男性(50歳代)・1人、男性(70歳代)・2人、男性(80歳代)・1人
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	4	女性(10歳代)・O157
4	レジオネラ症	1	26	男性(60歳代)・市外
5	後天性免疫不全症候群	1	7	男性(20歳代)・感染者
5	梅毒	2	75	男性(20歳代)、男性(30歳代)
5	百日咳	2	35	女性(10歳未満)、女性(50歳代)

## ■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	広島市	週	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎
			第30週	10	6	53	82	5	61	1	8	22	6	39	-	9	-	-	1	-	2
第31週	21	16	52	77	3	41	1	10	28	1	55	-	7	-	1	1	-	-			
第32週	19	8	43	57	5	35	1	8	21	6	44	-	10	-	-	2	-	-			
第33週	1	4	32	58	6	21	-	5	11	3	20	1	11	-	-	1	-	1			
第34週	1	5	45	90	3	31	2	8	18	1	34	-	13	-	-	1	-	-			
定点当たり	広島市	第30週	0.27	0.25	2.21	3.42	0.21	2.54	0.04	0.33	0.92	0.25	1.63	-	1.13	-	-	0.14	-	0.29	
		第31週	0.57	0.67	2.17	3.21	0.13	1.71	0.04	0.42	1.17	0.04	2.29	-	0.88	-	0.14	0.14	-	-	
		第32週	0.54	0.36	1.95	2.59	0.23	1.59	0.05	0.36	0.95	0.27	2.00	-	1.25	-	-	0.29	-	-	
		第33週	0.03	0.17	1.33	2.42	0.25	0.88	-	0.21	0.46	0.13	0.83	0.13	1.38	-	-	0.14	-	0.14	
	第34週	0.03	0.21	1.88	3.75	0.13	1.29	0.08	0.33	0.75	0.04	1.42	-	1.63	-	-	0.14	-	-		
全国	第32週	0.04	0.39	1.10	3.05	0.20	1.37	0.22	0.39	2.35	0.12	1.37	-	0.81	0.02	0.04	0.23	-	-		
第33週	0.04	0.32	0.83	2.50	0.20	1.00	0.19	0.34	1.48	0.12	1.34	-	0.83	0.03	0.04	0.27	-	0.01			

\* 百日咳は、2018年1月1日から5類感染症(全数把握疾患)に変更になりました。

## ■新たに判明した病原体検出状況

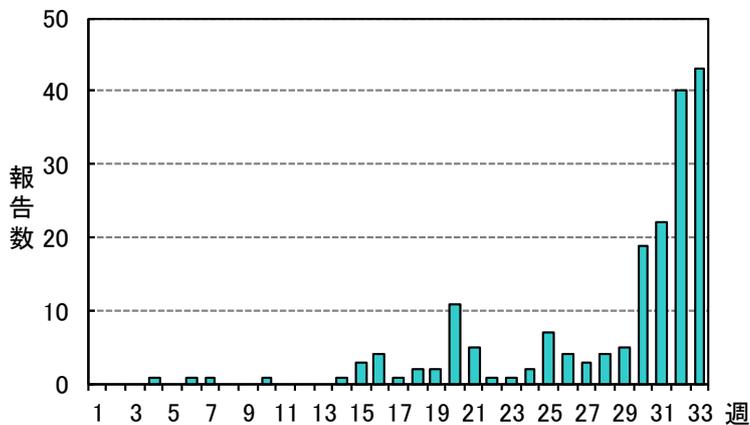
(検査:広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
無菌性髄膜炎	発熱(39.0) 嘔吐 下痢 髄膜炎 頭痛	14	女	2018/07/10	髄液	エコーウイルス18型
その他の呼吸器疾患	発熱(38.5) 気管支炎	4	男	2018/07/14	鼻汁	ライウイルス

\* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

## ★風しんに注意しましょう!

全国の風しん週別報告数 2018年 第1週～第33週



現在、首都圏を中心に風しん患者報告数が急増しています。男性は30代から50代、女性は20代に多くなっています。今後、全国的に感染が拡大することが懸念されます。

妊娠初期の女性が風しんにかかると、胎児に感染し、赤ちゃんが難聴、白内障、先天性心疾患を特徴とする先天性風しん症候群を持って生まれる可能性があるため、妊婦や周囲の方は、特に注意が必要です。

風しんの感染予防には予防接種が最も効果的です。定期接種対象者(1期:1歳児、2期:小学校入学前1年間の幼児)は無料で受けられますので、早めに接種しましょう。また、過去に風しんにかかったことがある、予防接種を受けたことがある又は風しんに対する抗体が陽性であると確認できている方以外の方は、予防接種を受けましょう。なお、妊娠を希望される女性の場合、1か月間避妊した後に接種し、接種後2か月間は妊娠を避けるなどの注意が必要であることから、接種にあたっては、医療機関によくご相談ください。

### 【参考】

- ・風しんについて(厚生労働省)  
[https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/)
- ・広島市では無料の風しん抗体検査を行っています。【先天性風しん症候群を防ぐために!】(健康推進課)  
<http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1395648504256/index.html>
- ・風しんに要注意!(健康推進課)  
<http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1338441470548/index.html>

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

### 【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号  
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail [ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp](mailto:ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp)

2018年第34週(8月20日～8月26日)